

令和元年度  
医療的ケアを要する小児等の実数調査  
(結果報告)

群馬県健康福祉部医務課

## 【調査の目的等】

### 1 趣旨・目的

平成28年度における障害者総合支援法及び児童福祉法の改正などにより医療的ケアが必要な小児等への支援体制の一層の充実が求められていることから、県内の医療的ケア児等（20歳以上も含む）の数や必要な医療的ケア等の状況を把握し、今後の支援策の基礎資料とする。

### 2 調査時期

令和元年10月～12月

### 3 対象

医療的ケア児等の診療を行っている19施設

### 4 調査方法

平成30年度調査で回答のあった施設及び事前調査で医療的ケア児等の診療を行っている回答のあった施設計19施設に対して調査票を送付し、回答を依頼。依頼した19施設すべてから回答があった。

※事前調査：平成30年度調査で回答のあった施設以外で小児科を標榜している病院等に対し、「医療的ケア児等の診療を行っているか」等を伺ったもの。

### 5 調査項目

性別、生年月、居住（出身）市町村、主な基礎疾患、重症度、必要な医療的ケア、普段の生活の場

## 【結果の概要】

- ・県内の医療的ケア児等の人数は、在宅365人、入院・入所112人、計477人であった。また、女性より男性が1割程度多かった。平成30年度と比較して、在宅の人数が33人増加した。
- ・年齢は0歳～75歳（令和元年10月現在）にわたったが、在宅では20歳未満が多く（308人、84%）、入院・入所者では20歳以上（80人、71%）が多い傾向であった。平成30年度と比較して、20歳未満が29人増加した。
- ・二次保健医療圏別（人口1万人対）の人数については、多い順に、渋川、桐生、高崎・安中という結果であった。
- ・必要な医療的ケアについては、多い順に「経管栄養」「口鼻腔吸引」「胃ろう」「在宅酸素療法」「気管切開」「経鼻胃チューブ」「気管内吸引」「気管切開人工呼吸器」「非侵襲的人工呼吸器」「導尿」「中心静脈カテーテル」「腸ろう」であった。
- ・重症心身障害児（者）（大島分類により判定）の割合は、「在宅」（57%）より「入院・入所」（93%）の方が高い傾向であった。

## 【調査結果】

### 1 性別

(単位：人)

項目	在宅	入院・入所	計
男	186	66	252
女	179	46	225
計	365	112	477

### 2 年齢階層別

(単位：人)

項目	在宅	入院・入所	計
乳幼児期	114	10	124
学齢期	189	21	210
その他	62	81	143
20歳未満	308	32	340
20歳以上	57	80	137
計	365	112	477

※乳幼児期：0～5歳、学齢期：6～18歳、その他：19歳以上

### 3 二次保健医療圏別

(単位：人)

二次保健医療圏	在宅	入院・入所	計
前橋	70	18	88
渋川	29	7	36
伊勢崎	45	10	55
高崎・安中	82	37	119
藤岡	4	5	9
富岡	10	3	13
吾妻	6	5	11
沼田	11	10	21
桐生	43	7	50
太田・館林	65	10	75
計	365	112	477

## 4 主な基礎疾患（重複あり）

（単位：人）

項目	在宅	入院・入所	計
周産期脳障害	62	52	114
後天性脳障害	40	23	63
染色体異常/先天異常症候群	78	16	94
神経筋疾患	29	2	31
その他の神経疾患	62	15	77
循環器系疾患	55	1	56
消化器系疾患	19	4	23
呼吸器系疾患	35	1	36
その他・分類不能	28	1	29
計	408	115	523

## 5 必要な医療的ケア（複数回答可）

（単位：件）

項目	在宅	入院・入所	計
経管栄養	181	86	267
口鼻腔吸引	146	66	212
胃ろう	142	67	209
在宅酸素療法	135	13	148
気管切開	70	33	103
経鼻胃チューブ	73	26	99
気管内吸引	61	24	85
気管切開人工呼吸器	33	21	54
非侵襲的人工呼吸器（鼻マスク等）	43	8	51
導尿	31	6	37
中心静脈カテーテル	11	4	15
腸ろう	0	2	2
その他	44	24	68
計	970	380	1,350

## 6 重症度

・下表については、大島分類に基づき集計した結果であり、太枠囲いの部分が重症心身障害児（者）とされている。

(1) 在宅 (単位：人)

					知能発達
50	13	5	12	9	A:境界域～正常
8	6	3	9	5	B:軽度
5	7	2	1	5	C:中度
3	6	2	14	17	D:重度
0	3	2	4	169	E:最重度

運動発達 走れる 歩ける 歩行障害 座れる 寝たきり

※5名は重症度判定不能のため合計人数は360名

計 204 人(57%)

(2) 入院・入所 (単位：人)

					知能発達
0	0	0	0	1	A:境界域～正常
0	0	0	0	0	B:軽度
0	0	0	0	1	C:中度
0	1	0	1	5	D:重度
0	2	3	5	93	E:最重度

運動発達 走れる 歩ける 歩行障害 座れる 寝たきり

計 104 人(93%)

(3) 合計（在宅、入院・入所） (単位：人)

					知能発達
50	13	5	12	10	A:境界域～正常
8	6	3	9	5	B:軽度
5	7	2	1	6	C:中度
3	7	2	15	22	D:重度
0	5	5	9	262	E:最重度

運動発達 走れる 歩ける 歩行障害 座れる 寝たきり

計 308 人(65%)

※5名は重症度判定不能のため合計人数は472名

7 二次保健医療圏別の人数（人口1万人当たり）（人）

二次医療圏	在宅 (人口1万人対)	入院・入所 (人口1万人対)	医療的 ケア児等計 (人口1万人対)	人口(※) (R1.10現在)
前橋	2.10	0.54	2.64	332,999
渋川	2.62	0.63	3.25	110,765
伊勢崎	1.83	0.41	2.23	246,544
高崎・安中	1.93	0.87	2.80	424,245
藤岡	0.60	0.75	1.36	66,286
富岡	1.46	0.44	1.89	68,713
吾妻	1.14	0.95	2.08	52,759
沼田	1.41	1.28	2.69	78,199
桐生	2.73	0.44	3.18	157,341
太田・館林	1.63	0.25	1.88	399,775
計	1.88	0.58	2.46	1,937,626

(※出典：群馬県移動人口調査)

【参考】

20歳未満の医療的ケア児（在宅）は308人で、人口1万人当たり1.58人。

8 二次保健医療圏別の年齢階層・在宅（人）

二次医療圏	乳 幼 児 期	学 齢 期	そ の 他	2 0 歳 未 満	2 0 歳 以 上	計
前橋	20	38	12	59	11	70
渋川	10	11	8	21	8	29
伊勢崎	18	23	4	41	4	45
高崎・安中	29	40	13	69	13	82
藤岡	1	3	0	4	0	4
富岡	5	4	1	9	1	10
吾妻	2	3	1	5	1	6
沼田	3	5	3	8	3	11
桐生	8	19	16	30	13	43
太田・館林	18	43	4	62	3	65
計	114	189	62	308	57	365

乳幼児期：0～5歳、学齢期：6～18歳、その他：19歳以上

9 二次保健医療圏別の必要な医療的ケア・在宅

(単位：件、人)

二次医療圏	経管栄養	口鼻腔吸引	胃ろう	在宅酸素療法	経鼻胃チューブ	気管切開	気管内吸引	非侵襲的人工呼吸器 (鼻マスク等)	気管切開人工呼吸器	導尿	中心静脈カテーテル	腸ろう	その他	実人数
前橋	36	29	27	28	13	12	11	4	5	10	1	0	11	70
渋川	19	15	15	10	6	9	7	3	6	3	0	0	2	29
伊勢崎	23	17	16	21	11	9	10	2	5	5	2	0	4	45
高崎・安中	43	37	39	27	19	22	19	9	12	2	3	0	7	82
藤岡	4	2	3	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
富岡	2	4	4	6	2	3	2	2	0	0	0	0	0	10
吾妻	1	1	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	1	6
沼田	3	2	3	7	0	4	4	1	2	0	0	0	0	11
桐生	22	22	18	18	8	5	4	7	3	6	0	0	9	43
太田・館林	28	17	16	14	13	6	4	14	0	4	4	0	10	65
計	181	146	142	135	73	70	61	43	33	31	11	0	44	365

10 年齢階層別の必要な医療的ケア・在宅

(単位：件、人)

項目	経管栄養	口鼻腔吸引	胃ろう	在宅酸素療法	経鼻胃チューブ	気管切開	気管内吸引	非侵襲的人工呼吸器 (鼻マスク等)	気管切開人工呼吸器	導尿	中心静脈カテーテル	腸ろう	その他	実人数
乳幼児期	45	26	23	55	33	16	13	6	4	10	5	0	5	114
学齢期	95	78	90	56	26	44	38	28	19	18	5	0	25	189
その他	41	42	29	24	14	10	10	9	10	3	1	0	14	62
20歳未満	144	109	116	114	60	61	52	35	24	28	10	0	31	308
20歳以上	37	37	26	21	13	9	9	8	9	3	1	0	13	57
計	181	146	142	135	73	70	61	43	33	31	11	0	44	365

乳幼児期：0～5歳、学齢期：6～18歳、その他：19歳以上

## 1.1 年度別比較 (H29～R1)

### 【比較結果の概要】

- ・平成29年度から実施しており、今年で3回目となる。
- ・3年間において、県内の医療的ケア児等の人数は、女性より男性の方が多かった。
- ・在宅の20歳未満の人数は、平成29年度から比べ多くなっている。

#### (1) 性別

(単位：人)

性別/在宅	H29	H30	R1
男	159	172	186
女	139	160	179
計	298	332	365

性別/入院・入所	H29	H30	R1
男	86	95	66
女	59	65	46
計	145	160	112

性別/計	H29	H30	R1
男	245	267	252
女	198	225	225
計	443	492	477

#### (2) 年齢・階層別

(単位：人)

年齢/在宅	H29	H30	R1
乳幼児期	92	108	114
学齢期	152	164	189
その他	54	60	62
20歳未満	251	279	308
20歳以上	47	53	57

年齢/入院・入所	H29	H30	R1
乳幼児期	11	11	10
学齢期	34	33	21
その他	100	116	81
20歳未満	46	48	32
20歳以上	99	112	80

年齢/計	H29	H30	R1
乳幼児期	103	119	124
学齢期	186	197	210
その他	154	176	143
20歳未満	297	327	340
20歳以上	146	165	137

乳幼児期：0～5歳、学齢期：6～18歳、その他：19歳以上



## (3) 二次保健医療圏別

(単位：人)

二次保健医療圏/在宅	H29	H30	R1	二次保健医療圏/入院・入所	H29	H30	R1
前橋	53	64	70	前橋	19	23	18
渋川	27	31	29	渋川	6	7	7
伊勢崎	35	43	45	伊勢崎	11	16	10
高崎・安中	74	81	82	高崎・安中	38	38	37
藤岡	8	8	4	藤岡	5	8	5
富岡	7	7	10	富岡	5	5	3
吾妻	6	7	6	吾妻	4	5	5
沼田	12	11	11	沼田	11	12	10
桐生	33	40	43	桐生	29	19	7
太田・館林	43	40	65	太田・館林	17	27	10
計	298	332	365	計	145	160	112

二次保健医療圏/計	H29	H30	R1
前橋	72	87	88
渋川	33	38	36
伊勢崎	46	59	55
高崎・安中	112	119	119
藤岡	13	16	9
富岡	12	12	13
吾妻	10	12	11
沼田	23	23	21
桐生	62	59	50
太田・館林	60	67	75
計	443	492	477

## (4) 重症度（大島分類）

(単位：人)

重症度/在宅	H29	H30	R1
重症心身障害児(者)	177	187	204

重症度/入院・入所	H29	H30	R1
重症心身障害児(者)	133	149	104

重症度/計	H29	H30	R1
重症心身障害児(者)	310	336	308